

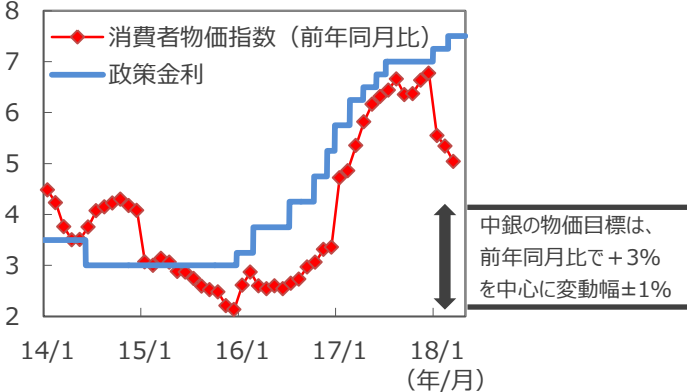
今日のトピック メキシコの金融政策は現状維持（2018年4月）

## 物価上昇ペースの鈍化から、政策金利は据え置き

### ポイント1 政策金利は据え置き 市場予想の通り

- メキシコ銀行（中央銀行、以下中銀）は12日の金融政策決定会合において、全会一致で政策金利（翌日物銀行間レート）を7.50%で据え置きました。
- 市場予想（ブルームバーグ集計）では、26名のエコノミストのうち24名が据え置きを予想していました。

【政策金利と消費者物価指数】



(注) 政策金利は2014年1月1日～2018年4月12日。  
消費者物価指数は2014年1月～2018年3月。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 物価上昇ペースは鈍化 今年は中銀目標に近づく見込み

- 9日に発表された3月の消費者物価指数は前年同月比+5.04%となりました。中銀の物価目標レンジ（+2～4%）を依然上回っているものの、2017年12月の同+6.77%を直近のピークにして、物価上昇ペースは急速に鈍化しています。
- 中銀は声明文で、足元の物価上昇ペースの鈍化について、これまでの利上げの成果と、野菜や果物、LPガスなどの価格下落の影響と述べています。また物価見通しについて、今後中銀目標に近づき、中長期的には+3.5%程度になるとしています。

【メキシコペソ】



(注1) データは2016年1月1日～2018年4月12日。

(注2) (ペソ/米ドル)は逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### 今後の展開 ペソは一進一退が見込まれる

- メキシコ経済はここ数カ月緩やかに拡大しています。懸念されていたインフレが今年に入り落ち着きを見せ始め、今後は中銀の目標付近に収まると見られているものの、北米自由貿易協定（NAFTA）を巡る米国との交渉や、今夏予定される大統領選挙などの不透明要因があることから、中銀は当面様子見を続けると見られます。
- NAFTAに関して米国の強硬な態度はやや軟化する兆しを見せたこともあり、通貨ペソは堅調に推移しています。ただし、引き続きNAFTAを巡る米国との交渉にはまだ不透明感が続く見込みで、高い金利水準などが魅力ではあるものの、ペソは一進一退の展開となりそうです。

ここもチェック! 2018年4月13日 『FOMC議事要旨』、金融環境は依然、緩和的  
2018年4月10日 注目される主要新興国通貨の動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。